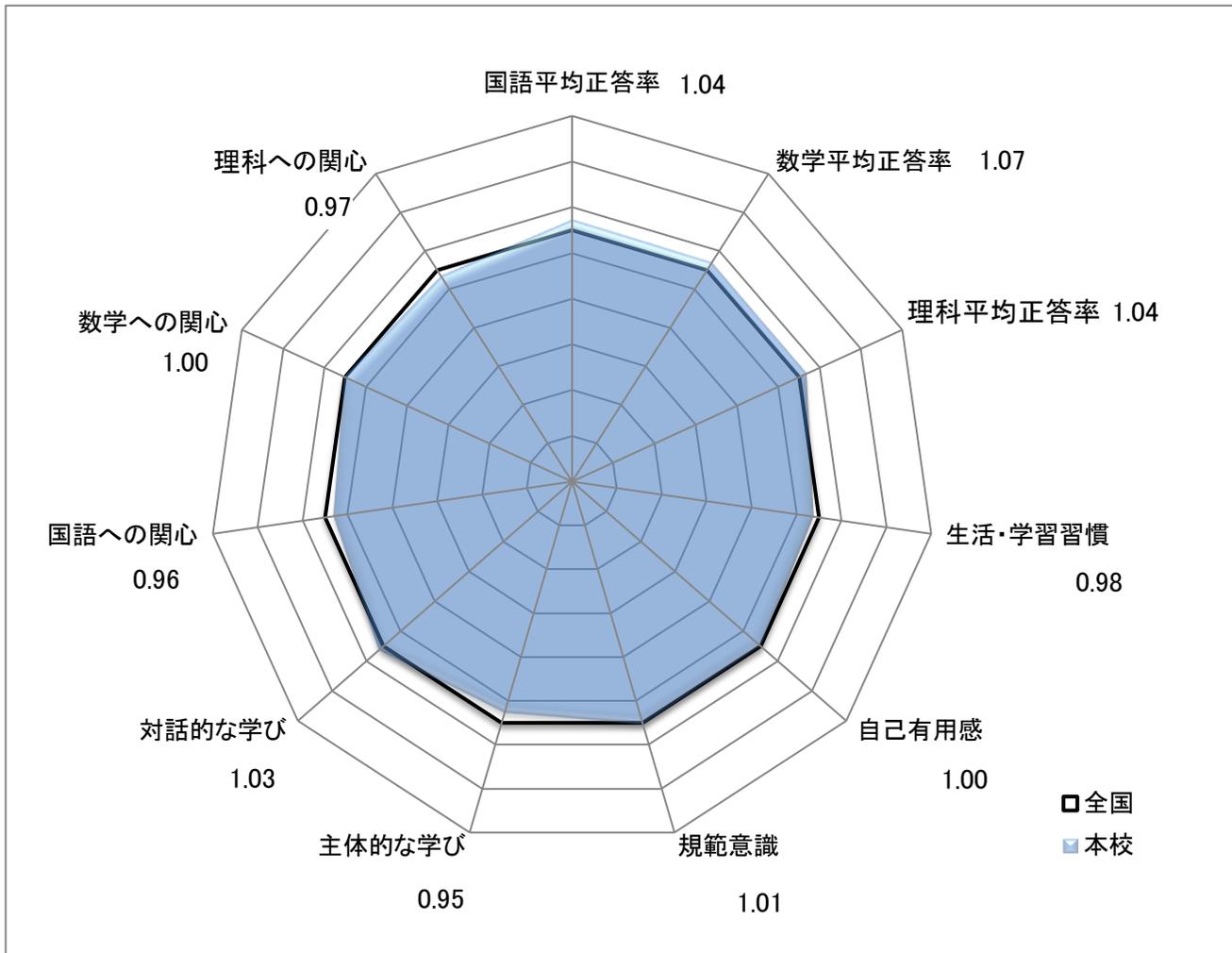


令和4年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表(中学校)

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】
 全国平均 +3.0ポイント
 我が国の言語文化に関する事項、読むことについては全国平均より高かったが、情報の扱い方に関する事項、書くことについては、全国平均を下回った。

【数学】
 全国平均 +3.6ポイント
 全ての領域において、全国平均を上回った。中でも、データの活用は、+6.4ポイントであった。

【理科】
 全国平均 +1.7ポイント
 全ての領域で0.3から2.2ポイント全国平均を上回った。

《授業改善のポイント》

【国語】
 「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」について力を付ける工夫が必要である。また、記述式問題の無解答率が高いので、日頃から記述式問題に慣れさせることも大切である。

【数学】
 国語と同様に、記述式問題の無解答率が高い。常日頃から諦めずに最後まで課題に取り組ませる練習が必要である。また、領域別にみると「関数」がやや不得意と思われるので、習熟度のレベルに合わせて教材を用意して指導をしていくことが大切である。

【理科】
 全ての領域で全国平均を上回っているものの、21問中約4分の1の5問では全国平均を下回っている。共通点としては、与えられた問題から共通点や相違点を分析して解釈する問題である。このような「思考・判断・表現」に関わる問題に取り組む必要がある。

《チャートの特徴》

レーダーチャートに表れているように、ほとんどの項目においてほぼ全国平均と同程度である。全国平均と比較して細かく見ていくと、生徒質問紙から「対話的な学び」が1.03、「規範意識」が1.01、と平均よりやや高く、「自己有用感」が1.00であることがわかる。一方で「生活・学習習慣」が0.98、「主体的な学び」が0.95と、平均を下回っている。「国語への関心」、「数学への関心」、「理科への関心」は、全国平均と比べ、0.96、1.00、0.97であり、今一つの結果であった。しかし、国語、数学、理科の平均正答率は、1.04、1.07、1.04と、どの教科も全国平均をやや上回っていた。点数は取れるが、「教科への関心」や「主体的な学び」が十分に育っていないと考えられる。

《家庭・地域への働きかけ》

学校に対して協力的な家庭が多い。本校の現状及び課題については、三者面談や保護者会、学校だより、学年だよりなどを通して認識していただき、家庭学習の大切さ、生活習慣・生活リズムの改善などを呼びかけ、学力の定着を図っていく。